

2023年度 茨城県スキー連盟調査 傷害事故報告書

今回、県連所属88団体様から傷害調査報告をいただき、皆様のご協力に深く感謝申し上げます(回収率91.7%)。アンケート調査報告によると傷害事故無が80件、傷害事故有は8件(内県連事業3件含)発生し、前年度対比で4件の増加、'14~'22年度の平均5.11件との対比でも2.89件増加する結果となりました。

但し、受傷された方々全員はヘルメットを装着されていました(装着率100%)。

尚、全国の状況は、全国スキー安全対策協議会、富樫SAJ理事(県連副会長)が纏められた、'22/'23シーズン スキー場傷害報告書2023(令和5)年2月1日~2月28日 (www.nikokyo.or.jp/pages/38/) をご参照ください。

さて、報告いただいた傷害事故8件から分析した主要部分を以下に報告致します。

図1. 受傷者年代：「10, 30, 60歳代」各25%、「70, 80歳代」各12.5%、「20, 40, 50歳代」0%でした。

図2. 受傷程度：「軽傷」25%、「中等傷」37%、「重傷」38%と「中等傷+重傷」で75%を占める状況でした。

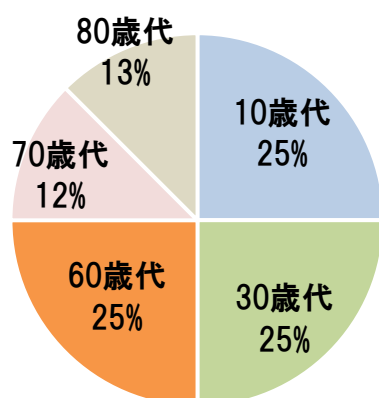


図1. 受傷者年代

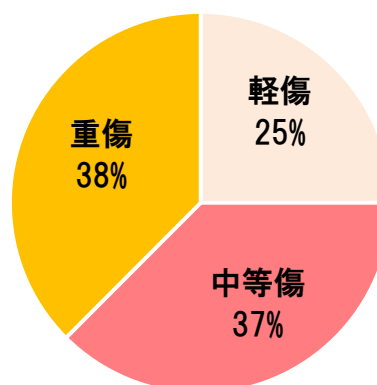


図2. 受傷程度

図3. 受傷場所：「緩斜面」12%「急斜面」50%「中斜面」38%で「中斜面, 急斜面」で88%に達しています。

図4. 受傷原因：「バランスを崩し転倒」62%、「その他(自分で転倒)」38%の単独受傷事故となっています。

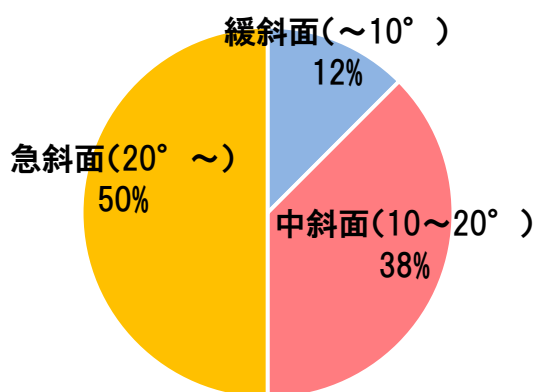


図3. 受傷場所

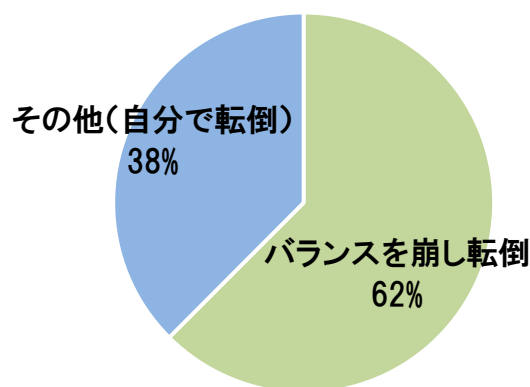


図4. 受傷原因

以上、我が県におけるスキー傷害の特徴をまとめると、幅広い年齢層で、斜度的に中斜面以上を滑走中に転倒し、中等傷・重傷を負う、単独傷害事故となっております。生涯「スノースポーツを安全に楽しむ」為の安全知識の周知と安全行動の習慣化が必要といえます。

茨城県スキー連盟安全対策部では、1981(昭和56)年度より県連所属団体の構成員及び所属団体の主催する行事に参加した方を対象に、スキー傷害事故調査を行ってきました。この調査の目的は、調査結果からスキー傷害の発生原因を明らかにして、その予防対策を行う際の参考資料を得ることと、「雪無し県」のスキー傷害の特性を明らかにしようとするものです。今後ともご協力、情報のご提供をお願い致します、

※皆様から頂きましたその他貴重な情報は茨城県スキー連盟HP、安全対策部欄へ掲載致します。